Creative Enzymes®

ネイティブバチルス・ポリミクサ・ディスパーゼ II

Cat. No. NATE-0192

Lot. No. (See product label)

はじめに

□明	Dispase IIは、中性プロテアーゼであり、非極性アミノ酸残基のN末端ペプチド結合を加水分解します。これは、in vitroで成長した多くの組織や細胞を分離するために使用されることがあります。この酵素は非常に□やかで、細胞膜を損傷しません。また、サスペンション培養における凝集を防ぐためにも使用できます。このプロテアーゼはフィブロネクチンとタイプIVコラーゲンを切断しますが、ラミニン、タイプVコラーゲン、血清アルブミン、またはトランスフェリンは切断しません。Dispase IIはロイシン-フェニルアラニン結合の切断に特異的です。Ca2+、Mg2+、Mn2+、Fe2+、Fe3+およびAl3+は酵素を活性化します。EDTA、EGTA、Hg2+および他の重金属は酵素活性を阻害します。この酵素は、精製された酵素1g-molあたり1g-原子の亜鉛を含んでいます。この亜鉛成分がEDTAやEGTAなどのキレート剤によって除去されると、不活性なアポ酵素が得られます。この酵素は血清によって阻害されません。
用途	この酵素は、マウス胚性乳腺芽の ex vivo 培養のプロトコルの開発に使用されてきました。また、ラット心臓からミトコンドリアを分離する際に、ラット心臓片の治療にも使用されています。さらに、酵素的加水分解による歯□幹細胞 (DPSCs) の分離にも使用されています。これらの細胞は、幹細胞および分化特性を分析するために、エクスプラント法で分離された DPSCs と比較されています。
別名	ディスパーゼ II; ディスパーゼ; 42613-33-2; バチルス・ポリミクサ由来のプロテアーゼ

製品情報

由来	バチルス・ポリミクサ
形態	カルシウムアセテートと乳糖を含む凍結乾燥粉末
CAS登□番号	42613-33-2
活性	> 0.5 ユニット/mg 固体
単位定義	1ユニットは、pH 7.5、37°Cで、カゼインを加水分解して、1分あたり1.0 µmole（181 µg）のチロシンに相当する色を生成します（Folin-Ciocalteu試□による色）。特に指示がない限り。

保管・発送情報

保存方法	2-8°C